

相場を主導するユーロを見るには、独経済動向に注意 ~ Ifo景況感指数

2011年5月23日(月)

今週は24日火曜日に、独Ifo景況感指数が発表されます。ドイツの代表的な経済研究所であるIfo(ミュンヘン)が調査公表する同指標はドイツ国内の7000社に対して、現状と今後6ヶ月の景況感について調査が行われており、サンプル母数の多さなどもあって、ドイツの景況感を見る上でもっとも重視されている指標となっています。

ギリシャ問題などを抱えながら今年これまでユーロが堅調な推移を見せ、今月に入ってある程度調整を見せたものの、直近安値から反発を見せている背景にはユーロ圏の経済全体を引っ張る独経済の好調さがあります。

もっとも、先週金曜日(20日)に発表された独財務省の月報では、第1四半期(1-3月期)以降、ドイツ経済成長は鈍化するという見方が示されていました。実際、先月発表された4月のIfo景況感指数も東西ドイツ統一後からの最高水準をつけた2月の111.3(旧基準)から110.4(同じく旧基準)まで、2ヶ月連続での鈍化見せるなど高水準ながらやや減速感が出ています。原油高などコスト上昇が響いていると見られますが、労働市場の好調さなどから、鈍化の影響は限定的なものにとどまるとも見られ今後の影響が注視されることとなっています。

そうした中で、今回(5月分)の予想ですが前回から更に鈍化するという見方になっています。

今月19日にIfoがプレスリリースをだし、今回のIfoから基準値が2000年から2005年に変更され新基準となっていますので注意しながら数字を見ると新基準の下で今回の予想は113.6東西ドイツ統一後最高水準をつけた2月が新基準では115.4その後、115.0(3月)、114.2(4月)と下がっており予想通りだとすると、3ヶ月連続での低下となります。

リーマンショック後の2008年12月には84.6(新基準)まで下がっていることを考えるともちろん113.6という水準でも高水準であることには違いがありませんが減速感には気になるところです。

先週17日には、Ifo景況感指数の前哨戦としても意識されるZEW(欧州経済研究センター)の景況感指数が発表されましたが、結果は3.1と、事前予想の4.5、4月の7.6よりもかなり弱めの数字になりました。2月の15.7から3ヶ月連続での低下であり、やはり景気動向の減速感が出ている様子です。

ある程度の織り込みが済んでいるため予想程度であれば、それほど大きな波乱はないと思われますが万が一予想を超えて弱い数字例えば110を割り込むような数字が出てくると、ギリシャなどの救済に関する市場の懸念にもつながりユーロが大きく売られる可能性がありますので注意して見ていきたいところです。

発表は24日の午後5時です